

西中だより

教育目標

豊かな心と学ぶ意欲を持ち、たくましく生きる生徒(財性機)

「確かな学力、豊かな心、健やかな身体をはぐくむ、

伝統と誇りの西中学校」

川口市立西中学校

〒332-0028

川口市宮町16-1

Tel 048-253-1231

Fax 048-251-6792

発行日

令和3年5月6日



「なれていいこと、なれてはいけないこと」

校長 三浦 伸之

4月23日は離任式でした。本校を転退職された先生方からいただいたごあいさつは、どれも西中学校や生徒に対する思いに溢れていました。何事にも一生懸命がんばる西中生、小さなルールを一つ一つ守り、当たり前前のことが当たり前前にできる西中生という言葉いただきました。また、離任式の前に下校した1年生は、離任式で来校された先生方に対して自ら進んであいさつをしてくれたとのお話も伺いました。先生たちが見ていないところでも元気にあいさつをしている1年生の姿を想像すると、とてもうれしい気持ちになりました。

これまでに築き上げられてきた西中学校の校風を、これからも私たちの手でしっかり守っていかなければならないと決意を新たにしましたところでは。

さて、令和3年度がスタートして1か月が過ぎようとしています。新たな環境の中で、どの学年も平常の学校生活に徐々に慣れてきた様子が見受けられるようになりました。これからも生徒自身が日々の生活において様々な経験を積み重ねながら、学校生活のレベルを一つ一つ向上させ、よりよい生活習慣を整えてほしいと思います。

慣れると同じ読み方をする言葉には、人とかかわりの中で使う場合の「なれ(馴れ)る」と、「なれ(狎れ)る」という言葉があります。この2つの言葉は同じ「なれる」でも意味は全く異なります。

その中の一つのなれる(馴れる)とは、新しい友達にもすっかりなれ、その人に親しみを感じるようになったという意味のなれるです。もう一つのなれる(狎れる)とは、親しみすぎて礼を欠いたり、相手の嫌がる行動や言葉を言ったり、なれなれしい態度をとるとという意味のなれるです。

人とかかわりの中で、友達にとっての行動や言葉が相手にとってどのように受け止められているのか、自分自身で考えられる西中生、いつでも友達を思いやれる西中生、親しき中にも礼儀あり、なれていいこととなれてはいけないことを心得た西中ファミリーであってほしいと思います。

新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、3度目の緊急事態宣言となりました。人々の「自粛疲れ」や「宣言慣れ」などが懸念され、宣言の効果についても意見は様々です。

未だ収束に向かわない現状を受け止め、自粛や制限が続き、その状況に耐えているのは、コロナ禍以前の日常の姿を一日でも早く取り戻すことができる日が来ることを信じているからです。

耐えているのは学校で学ぶ子供たちも同じです。本来あるべき学校生活の姿を一日でも早く取り戻してあげたいと思うのは誰もが願うところです。私たち大人たちも苦難な状況に見舞われていますが、同じ境遇にあるのは子供たちも一緒です。

そのような子供たちに対する私たち大人の務めは、寄り添い、支え、そして子供たちの力になることです。

